

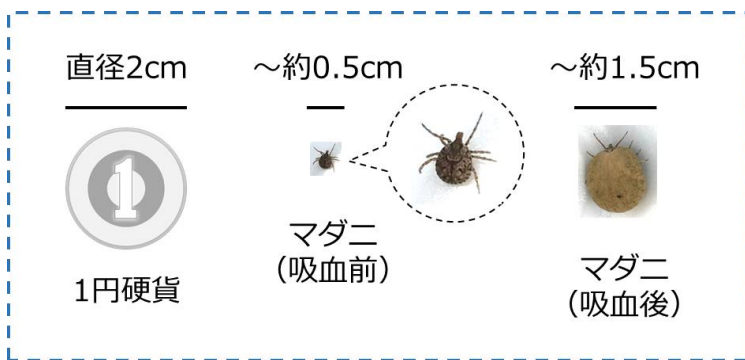
ぎふ感染症かわら版

令和4年3月18日 岐阜県感染症情報センター（岐阜県保健環境研究所）



「マダニ」に咬まれないよう注意しましょう！

野山に生息するマダニに咬まれると日本紅斑熱、重症熱性血小板減少症候群(SFTS)、ダニ媒介性脳炎やライム病などの「ダニ媒介感染症」に罹患することがあります。春から秋にかけてマダニの活動が活発化するため、草むらなどで活動する際は、肌を露出しないなどの感染予防対策を行いましょう。もし咬まれた時は数週間程度体調の変化に注意し、発熱等の症状がでた場合は速やかに医療機関を受診しましょう。



マダニの多くは通常 0.5cm 程度と小さく、気づかないうちに衣服に付着していることがあります。一旦咬みつくと長時間吸血し、無理に取り除くと口器が皮膚の中に残り化膿することがあります。無理せず、皮膚科等の医療機関にご相談ください。



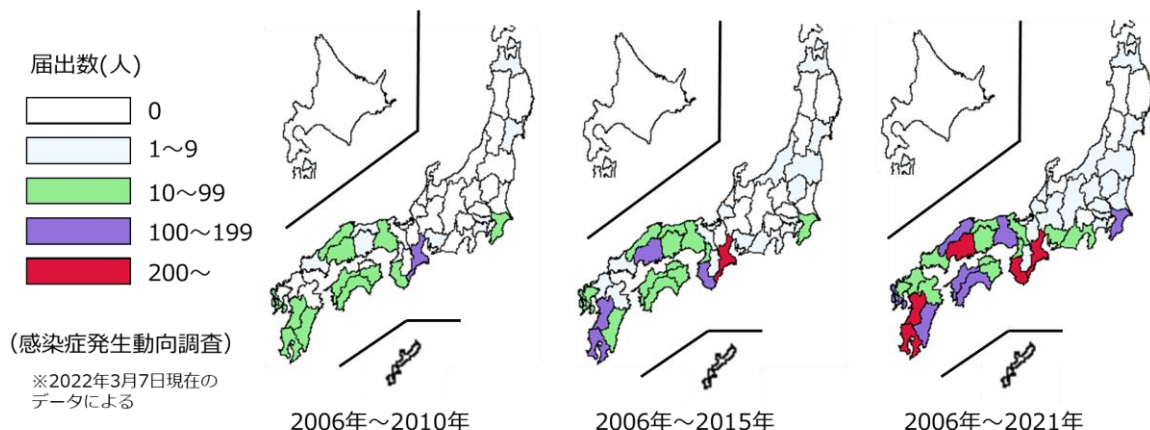
岐阜県で発生報告のあったダニ媒介感染症について

これまでに岐阜県では、日本紅斑熱、ライム病及びツツガムシ病（マダニではなくダニの仲間ツツガムシが媒介）の発生が報告されています。2021年に初めて岐阜県で報告された日本紅斑熱は、その発生地域が全国で拡大し続けており、発生報告も増加しています。今後も岐阜県において発生することが予想され注意が必要です。

全国の日本紅斑熱届け出数



日本紅斑熱患者の届出状況（2006年～2021年）



日本紅斑熱ってどんな病気？

紅斑熱群に分類されるリケッチア（偏性細胞内寄生細菌）によって起こる感染症です。一部のマダニがこの病原体を持っており、それに刺されると感染します。感染すると発熱、発疹や肝機能障害といった症状が現れ、多くの患者にマダニの刺し口がみられます。時に多臓器不全により死亡に至ることもあり、マダニから身を守る対策を適宜とることが重要です。

日本紅斑熱などのリケッチア症には有効な抗菌薬があるので、早期に治療が行われると症状は改善しますが、遅れると重篤化することもあります。そのためもしマダニに咬まれた場合は、数週間程度体調の変化に注意し、発熱等の症状がでた場合は速やかに医療機関を受診しましょう。

マダニから身を守るために行っていただきたいこと

● マダニの生息場所に注意する

- ✓ マダニは、シカやイノシシなどの野生動物が出没する環境に多く生息しています。
- ✓ マダニは、民家の裏山や裏庭、畑、あぜ道などにも生息しています。

● マダニから身を守る服装をする（※熱中症予防も十分行ってください）

- ✓ マダニが生息していそうな場所では腕・足・首など、肌の露出を少なくしましょう。

（例：長袖、長ズボン、手袋を着用し、首にはタオル等を巻きましょう。）

- ✓ マダニが侵入しないよう、衣服の隙間を覆いましょう。

（例：袖口を手袋の中に入れる。シャツの裾をズボンの中に入れる。ズボンの裾に靴下を被せる。など）

● 屋外での活動後、マダニから身を守る方法を行う

- ✓ 作業服などは、家の中に持ち込まないようにしましょう。
- ✓ シャワーや入浴で、ダニが付いていないかチェックしましょう。
- ✓ ガムテープを使って服に付いたダニを取り除く方法も効果的です。

● その他

- ✓ マダニに対する忌避剤(虫よけ剤)を、上記の方法と組み合わせて使用しましょう。

（参考）厚生労働省ホームページ（ダニ媒介感染症）

<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000164495.html>



保育所や幼稚園、高齢者施設など、希望される施設に対して「ぎふ感染症かわら版」のメール配信もおこなっています。
くわしくは岐阜県感染症情報センターホームページをご覧ください。

